

3年生、社会科で町内めぐりへ

30日、3年生の3名が、伊方小学校の3年生と一緒に町内めぐりに出かけました。この町内めぐりは、社会科の授業の一環です。

小学校3年生の社会科では、子供たちが、地域や社会のことを学ぶ中で、自分で調べたり考えたりしながら問題を解決する力を育てていきます。

具体的には、次のような力を育てます。

1 地域について理解する力と調べる力

自分たちが住む地域の地理や環境、安全を守る活動、産業や消費生活の様子、地域の移り変わりなどを、人々の生活と結び付けて理解します。また、地図や資料を使って情報を調べ、まとめる技能を身に付けます。

2 社会を考える力と表現する力

社会の特徴やつながり、意味を考える力を育てます。そして、社会にある課題を見付け、その解決に向けて「どう関わるか」を自分で考え、判断し、表現できるようにします。

3 主体的に学ぶ姿勢と地域への愛着

主体的に学習課題に取り組む姿勢や、学んだことを日常生活に生かそうとする態度を育てます。その過程で、地域社会に対する誇りや愛情、一員としての自覚を大切にします。

今回の町内めぐりでは、庁舎やスーパーマーケット、消防署、しらす工場など、自分たちの生活と関わりのある施設を見学します。生活科では、主な学校の周辺を学習しましたが、3年生では、学習範囲がぐんと広がっているのですね。

見学を終えた3年生に感想を聞いてみました。

シラス工場で-25度の冷凍庫に入りました。シラスは、こんなに冷たい場所で保管されているんだなあと思いました。だから、おいしいシラスを食べられるのだなあと思いました。

(3年男児)

佐田岬半島ミュージアムには、昔の物がたくさんあっておどろきました。

シラス工場の冷凍庫は、入った瞬間にスカートがカチコチになっていました。(3年女児)

一番思い出になったのは、佐田岬半島ミュージアムです。昔の物がたくさんあって、昔の伊方町のことが気になりました。大砲にもおどろきました。機会があれば、また行きたいです。

(3年女児)

子供たちの感想には、体感した素直な驚きが表れていますね。この感想を生かして、社会が、どのように自分たちと関わり合っているかを学んでほしいと思います。